

第3次教育振興基本計画の策定に向けて

文化財・生涯学習課

第1回審議会の主な御意見

学習県の到達イメージ

● 子どもの育成と手段

- ・ 人の役に立つ喜びの感性を子どもに育みたい
- ・ 大人との出会い方が子どもの成長過程には大切
- ・ 子どものリテラシー能力を高める必要がある
- ・ 総合的学習、信州学は世代を繋ぐツール
- ・ 居住地域で存在感を発揮する教員を増やしたい
- ・ アクティブ・ラーニングは、信州教育の本質
- ・ 学校教育は、社会教育を創る基盤を育成する場
- ・ キャリア教育でリアルな仕事、生き方に触れる

● 多様化への適応

- ・ 多様な価値観を共有できる社会を目指すべき
- ・ 子どもの自信となる何かしらの素養を磨きたい

● 地域を活かす学び

- ・ 30年後に学ぶ人々をイメージして学びを考える
- ・ 学習者に対する情報伝達手段にはもっと工夫が必要
- ・ どこでも高等教育を受けられる環境の整備
- ・ 成人の働き方、キャリア構築の機会提供が大切
- ・ 地域や社会と繋がることで、自身の学びが生きる
- ・ 親の世代こそ、幅広い年代の人々と繋がるべき
- ・ 学ぶべき課題を共有できる仲間を増やしたい
- ・ 常識を備える“家庭力”の育成は、生涯学習の役割
- ・ 本県の社会教育の実践の質を更に高めたい
- ・ 市町村の生涯学習施策に対する県の支援を明確に
- ・ 学びの成果を社会に還元する仕組みを充実したい

● 発想の転換と先進性

- ・ アウトプットすることが、一番の学びである
- ・ 教える人、学ぶ人の間に立つ第三者の役割が大切
- ・ 地域のことを考える“良い大人”を増やしたい
- ・ 合理性の名目で分断された人・世代の繋がりの修復
- ・ 「学び」と「働くこと」を繋ぐ
- ・ ICT環境の整備で、“場所”の概念を変える
- ・ 地域が儲かる生涯学習の視点を持つ
- ・ IT化を見据える職業選択に向けた訓練施設の充実
- ・ 多世代間の交流が、子どもの愛郷心を育む

ゴール 1

さすが信州で
学んだ子は
一味違う

ゴール 2

学びの時間軸
を複線化し
人を活かす

ゴール 3

だれでもいつ
でもどこでも
学び、
学び直せる

ゴール 4

中山間地は
クリエイティブ
ビレッジ